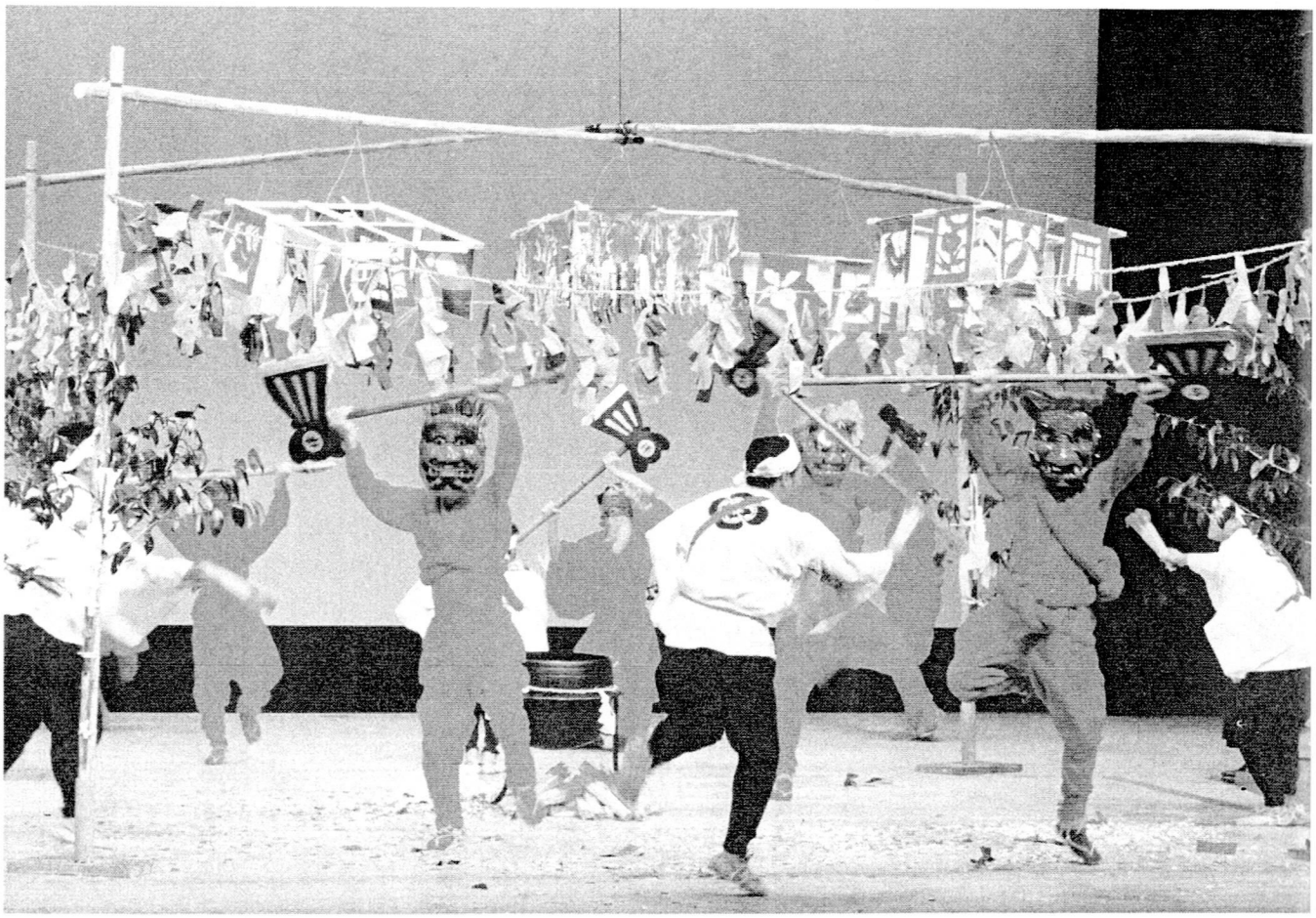
かながわの民俗芸能

第 59 号



関東ブロック民俗芸能大会より

神奈川県民俗芸能保存協会

目　次

特集　「第三十六回関東ブロック民俗芸能大会」

民俗芸能大会概要 …… 3

関東ブロック民俗芸能大会出演一覧 …… 7

大会アルバム …… 9

新たに指定された県指定無形民俗文化財
「山北町室生神社の流鏑馬」の紹介 …… 12

県指定無形民俗文化財の指定を受けて
室生神社流鏑馬保存会会長　高杉　真 …… 13

国・県指定無形民俗文化財一覧 …… 14

会員だより
牧野人形の成立と盛衰
相模人形芝居研究家　林　美禰子 …… 15

ニュース・伝言板 …… 19

☆☆ 第36回関東ブロック民俗芸能大会 ☆☆

- 早稲田人形　（長野県阿南町）
- 大前神社の式三番　（新潟県大和町）
- 西島の神楽　（山梨県中富町）
- チャッキラコ　（神奈川県三浦市）
- 三和祇園ばやし　（茨城県三和町）
- 川合花の舞　（静岡県佐久間町）
- お札まき　（神奈川県横浜市）

（・大会パンフレットより掲載
・順番は当日の出演順）

第三十六回関東ブロック民俗芸能大会が、平成六年十月二十三日（日）に、横浜市市民会館関内ホールで開催されました。

この大会は、昭和三十四年から文化庁移動芸術祭の一貫として関東ブロック一都十県を会場として実施されています。

今回は十一年ぶりに神奈川県で開催され、本県からは三浦市のチャッキラコと、横浜市のお札まきが出演しました。

当日は、当協会会員も含め八百名余りの観客で盛況のうちに幕を閉じました。

早稲田人形（長野県阿南町）

早稲田人形の起源は、正確には解っていませんが、天保年間にはすでに行われていたことがわかっています。元禄時代、大阪方面で全盛を極めた人形芝居も次第に衰微し、地方人形の盛んな場所へ流れ、伊那谷の当地早稲田にも入ってきて、明治から大正にかけての最盛期をむかえました。昭和初期に後継者難で一時衰退しましたが、戦後、保存会を結成し再興しました。

人形はすべて三人使いのため、ほとんどの家で、人形、三味線、語りを受け持たなければなりません。しかも家々では語り、三味線、立役、女形とそれぞれ得意とする家筋ができ、これを「お家芸」と呼んでいます。

人形の特色としては、神事に深く関わっており、八月二十四日の早稲田神社の祭りには、氏子等の無病息災を祈念して、三番叟を奉納します。又、一月十五日の神送りの神事にも人形が登場します。幣束を持った人形を先頭に、神輿を担ぐ人形、笛、太鼓、鐘等で行列をつくり掛け声をかけながら進みます。このように早

稲田人形は、舞台のみでなく、土俗信仰の方向へも歩んでおり民俗学的にも貴重な存在といえます。

〈今回の演目〉

三番叟と絵本太功記五段目

三番叟　早稲田神社の祭典には、神事としてこの三番叟が奉納されます。操り人三人と音曲の三人が、白袴白袴で神に正対して行います。舞台では幕あけ三番叟として黒衣で操ります。まず四方を清め、鶴の餌拾い、腰越え、鳥飛び等の形で、目出度く舞い納めます。

太功記五段目　織田春長が武智光秀の謀反により、本能寺において落命します。この事を阿野の局が、中国にて郡方の清水長左衛門宗治の高松城を、水攻めにして戦っている、真柴久吉のところへ、都より夜を日に継いで注進に来ます。久吉はすぐにも都へ引き返して、亡君の仇、武智光秀を討ちたいが、そのためには郡方と和議を結ばなければなりません。郡方の使いとして先刻より陣中に来ていた、安徳寺恵瓊に和議を結ぶ使者を命じます。

（国選択・記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財）

大前神社の式三番

式三番とは能楽の「翁」のことで、千歳と翁と三番叟が、次々に登場するめでたい舞です。翁芸は能楽の中でも特に神聖視される舞で、たいそう大切に取り扱われています。翁芸は様々な形で各地の神事や芸能に伝承されていますが、この舞もその一つに当たります。

露払いというべき千歳の舞、翁の荘重な舞、三番叟の狂言風の舞という様に、それぞれの舞に特徴がありますが、「とうとうたりらり、たらりらぁ」に始まる謡の随所に見られる文句からも知られるように、これらの舞には、天下泰平・国土安穏・五穀豊穣を祈る意味がこめられています。

大前神社の式三番は、魚沼三山の一つ、八海山の麓にある大崎地区の鎮守、武内大崎神社に伝えられたものです。その由来については一切不明ですが、毎年例大祭（八月十七・十八日）の奉納芝居の幕開けに、儀式として舞い継がれて来たものと伝えられています。前の大戦に際して、一時中断を余儀なくされましたが、戦後地元の有志の手による大崎郷土芸能振興会によって再開されました。現在は八月十四日、例大祭の宵宮に奉納上演されています。

この芸能の所作や口上、筋の運びには、歌舞伎狂言の影響がかなり色濃く見られますが、その反面、能楽の古いしきたりも伝えられており、芸能史の上からも貴重な資料となっています。また、三番叟の舞の中で、大勢の囃子方の掛け声に合わせて舞うところなどは、いかにも農村らしい、ひなびた素朴な感じがあふれています。三番叟の舞は、新潟県内では綾子舞、大須戸能文弥人形などにそれぞれ伝承されていますが、大前神社の式三番のように歌舞伎式三番として伝えられているのは大変珍しい例と言えましょう。

なお、この式三番と同種のものは、桧原村（東京都）、上閏戸（埼玉県）、黒平（山梨県）などにみられますが、大前神社のものが北限に位置しています。

（新潟県指定無形民俗文化財）

西島の神楽（山梨県中富町）

「御大漁の儀」

「御大漁の儀」は、西島神楽十七座のうち、最も楽しく、軽妙ななかにも素朴なふるさとの心を伝えるおめでたい舞であります。

神楽の内容は、事代主命（えびす様）と、ひょうきんな従者（おかめ）のお二人の神様が出雲の浜で鯛つりに興ずるユーモラスな様を演じます。

鯛つりのえさに見たてた「紅白の祝餅」をまきながら登場し、二人の神様が交互に釣り落し、三回目にめでたく大きな鯛をつり上げ、その喜びを体いっぱいに表現しながら、ご神前で「合の舞」を奉納いたします。

この神楽の見どころは、出演する神楽の面が古く、非常に表情が豊かであることと、鯛を釣り落す時のしぐさや、お二人の神様の呼吸の合った「合の舞」また、従者が最後に退場するときの「足のかえし」さらに、はやしの曲の軽快さ等で、見る人の心をおどらせます。

はやしは①「御大漁の曲」（鯛つりの場」②「竜拍子」（合の舞）③「竜拍子打切りの曲」（従者退場の

時）の三曲でなります。

なお、「紅白の祝餅」は、縁起のよい、幸せを呼ぶ餅として大変喜ばれ、かつて、「六十一年かいじ団体」の開・閉会式で上演した時など、全国の選手団からは、「勝利の餅」として喝采を博し、また、昨年の「伊勢神宮式年遷宮奉祝祭」に山梨県代表として奉納した時も大好評でした。

武田信玄公時代から約四百年の風雪にたえ、富士川のほとりのひなびた「手漉和紙の里・西島」に長い伝統の中で洗練されながら受けつがれてきた土の香のただよう、郷土色豊かな素朴な舞をお楽しみください。

（山梨県指定無形民俗文化財）

チャッキラコ

（神奈川県三浦市）

三浦市は、三浦半島の先端に位置し、花暮・仲崎地区に伝わるチャッキラコの起源は古く、一七五六年の三崎最古の郷土誌「三崎誌」（木村草也著）に「初瀬踊一名日ヤリ、十五日女児集る」と記述されています。昔は、こうした民俗行事が各地にあったようですが、今日では殆ど消滅してしまいました。

踊手は五歳～十三歳の少女十人～二十人（制限はない）で、歌い手は中年以上の主婦五人～十人位で演じられています。少女達の衣裳は、明治四十四年二月十二日の三崎警察分署の移転開庁式において、消防組頭長谷川嘉兵衛が考案した千早に朱の袴・金色の立烏帽子・花かざしに変わったものの、昭和四十年五月十四日、県の無形文化財に指定されたのを機に、元の正月用晴着に復元され今日に至っています。

花暮・仲崎両地区では、踊子がいる家の中から各一軒づつ当屋ができ、一年間一切の世話をするしきたりになっています。一月十五日の当日は、音頭取りや少女達は当屋に集まり、朝、「御本膳」という親愛の深まることを念じた祭食にあずかります。

チャッキラコの踊りは次の六種類です。

- ハツイセ　右手に舞扇　向立舞
- チャッキラコ　両手にコキリコ　向立舞
- 二本踊　両手に舞扇　向立舞
- よささ節　右手に舞扇　向立舞
- 鎌倉節　右手に舞扇　向立舞
- お伊勢参り　右手に舞扇　円舞

向立舞とは、踊子が半数づつ二列になって、一mほど間をおいて向い合って踊るものです。チャッキラコでは、両手に一本ずつコキリコを持ち七・五・三の拍子をとりますが、他の五つの踊りは、扇を手に持って踊ります。

（国指定無形民俗文化財）

三和祇園ばやし

（茨城県三和町）

三和祇園ばやしは、三和町八坂神社の夏祭りの神輿の渡御に供奉し、五穀豊穣、悪疫退散を祈願して奉楽されるはやしです。

大太鼓、つけ太鼓及び鉦のほかに数十個の鼓が加わって合奏され、きりばやし・寄せばやし・こしゃぎり・てまりばやし・通り神楽ばやしなどの曲があります。その雅やかな音色は、京都の祇園ばやしのはなやかさが感じられます。

古くは、茨城県真壁郡加波山神社の祭礼に奉納されたことから加波山ばやしとも呼ばれ、歴史の古さを物語っています。装束は、揃いの鉢巻、半纏、足袋、パンツ（白ズボン）といった出立ちで行います。

曲目の代表格である「通り神楽（シャギリ）」は、その昔、郷人たちが夜の明けるのも忘れてただ一心不乱に神に祈りを捧げながらこの曲を奉楽しているうちに、いつしか夜は明け始めて付近一帯は狭霧につつまれていたことから、名付けてこの曲をサギリ（後に土地のなまりでシャギリ）というようになったと伝えられています。

また、通り神楽を編曲してできたものがあり、一つは鼓の音律で聞かせる「こしゃぎり」二つ目は全体的に編曲した「はなしゃぎり」で、3つ目は大太鼓がゆっくり（のろく）たたく「のろしゃぎり」で、四つ目は大太鼓バチ数を抜いた「ぬけばち」です。

この「通り神楽（シャギリ）」は別名「きりん」とも言い、そのいわれは郷人たちが、夜明けの狭霧の中で鼓奏を続けていると、真心が神に通じたのか、立ちこめる濃霧の中に、一瞬あたかも麒麟がおどりでた如くに見えたことから「きりんの曲」と名づけられたということです。

いずれも、今回公演する曲目はリズミカルなすばらしい曲ばかりなので、きっと茨城三和地方に代々受け

継がれてきた伝統芸能「三和祇園ばやし」を楽しんでいただけると思います。

（茨城県指定無形民俗文化財）

川合花の舞（静岡県佐久間町）

「川合花の舞」は静岡県磐田郡佐久間町の川合に鎮座する八阪神社に伝承されている湯立神楽です。本来は霜月の厳寒の頃行われていましたが、今は十月の最終土曜日に行われます。奥三河地方の「花祭り」が静岡県側にも伝わり、現在でも佐久間町に三箇所で花祭りと同系統の、鬼が登場する湯立神楽が伝承されています。三箇所とも芸能自体が「花の舞」と呼ばれ、子供がかわいい花笠を付けて踊る「花の舞」という演目があり、この舞が強調され、奥三河の花祭りと違う名称が冠せられているようです。

八阪神社の拝殿前には注連縄で区画された二間四方の舞処が設営されます。中心に湯立の釜が据えられ、釜の上には切り紙（キリコ）で飾られたビャッカイが吊り下げられ、無処内には四箇所やはりキリコで飾られたユブタが吊り下げられます。舞処内の釜の周りで芸能が演じられます。

ハママズ汲みとして湯立の水が用意され、カマバライとして湯立の釜を祓い、火防せの祈禱をします。そして、次の演目で芸能が続きます。

①地固めの舞②二つ舞③三つ舞④山見鬼⑤四つ舞⑥榊鬼⑦おかめの舞⑧湯立の舞の順で舞われます。二つ舞は二人の舞手が各々右手に扇、左手に鈴・八千代（木製刀）・ボウズカ（色紙の飾りが付いた木製刀）・金山（剣）を持ち、太鼓と笛の楽に合わせて舞われます。三つ舞は同様の採り物で三人で舞われますが、中に「花の舞」と呼ばれる子供の舞が挿入されます。山見鬼は「山の神」とも呼ばれ、鉞を持った鬼が登場し、反閉を踏み、天井から吊り下がったハチノスを鉞で叩き落とし乱舞します。四つ舞は四人で舞われつ、いよいよ榊鬼が登場し、ネギと門答の後乱舞し、湯立の火を掻き散らします。面の舞の「おかめの舞」と「湯囃子」の「湯立の舞」を終え、ネギが「湯上げ」と称する祈禱をして芸能を終了します。

奥三河の花祭りと趣を若干違えた湯立の神楽が鑑賞できます。

（静岡県指定無形民俗文化財）

お札まき（神奈川県横浜市）

八坂神社は元亀二年（一五七二）勧請、元禄元年（一六八八）再興の古社で、牛頭天王社と呼ばれてきましたが、昭和七年に八坂神社と改称しました。

お札まきは七月十四日の同社の夏祭りに行う踊りで、元禄再興と共に始まったと伝えます。この踊りは、江戸時代中期ごろ、江戸や大阪で盛んに行われましたが、やがて消滅してしまい、現在は東海道の一隅、戸塚宿にだけ伝え残されています。

男子十人が姉さんかぶりに襷がけの女装をして裾をからげ、渋うちわをもちます。うち音頭取り一人はボテカズラをかぶります。他に翁面を懸けた大幣を持つ者が一人います。

音頭取りの風流歌に合わせて踊り手が唱和しながら輪になって右回りに踊ります。踊りは単純な動作で芸術的価値はほとんどありませんが、踊り終わると音頭取りが左手に持った「正一位八坂神社御守護」と刷られた五色（青、赤、黄、緑、白）の神札を渋うちわであおいで路上に撒き散らします。人々は争ってこれを拾って帰り、家の戸口や神棚に貼ります。八坂神社の境内で踊り終ると、町に出て町内の十四ケ所で踊って神社に帰って来ます。

その歌詞に「ありがたいお札、さずかったものは、病をよける、コロリもにげる」という文句があり、祇園祭りと同様な御霊信仰に基づく厄霊除けの行事であったことを物語っています。

神札を路上に撒き散らして人々に拾わせるという御符配りは、現在では極めて珍しくなっていて、民間信仰資料としての価値は高いです。

（横浜市指定無形民俗文化財）

関東ブロック民俗芸能大会出演民俗芸能一覧

都県名	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	静岡県
第1回 昭和34年9月 東京都 日本青年館	東金砂神社の田楽舞 水府村	大日堂獅子舞 真岡市	木崎音頭 新田市	ささら獅子舞天狗拍子 皆野町	佐原ばやし 佐原市	御岳の太々神楽 青梅市	大山の神楽舞 伊勢原市	花笠踊り 両津市	無生野の念仏踊り 秋山村	雨宮の御神事 屋代町	初島の鹿島踊り 熱海市
第2回 昭和35年7月 神奈川県 神奈川県立音楽堂	綱火 伊奈村	城銀舞 大田原市	玉村横樽音頭 玉村町	金谷もちつき踊り 東松山市	州崎のみろく踊り 館山市	八丈島の民謡の樫立踊り 八丈島	相模人形芝居 厚木市	大の阪おどり 堀之内町	諏訪神社の天津司舞 甲府市	大門踊り 松代町	小国神社の舞楽 森町
第3回 昭和36年5月 長野県 長野市民会館	排禍囃子 八郷町	風見の神楽 塩谷市	尻高の人形芝居 高山市	大宮住吉神楽 板戸市	丸山の三番叟 丸山町	八王子の車人形 八王子市	あやめ踊り 三浦市	大須戸能 朝日村	綱原の獅子舞 上野原町	和合の念仏踊り 阿南町	藤守の田遊び 大井川町
第4回 昭和37年5月 群馬県 群馬音楽センター	あんば獅子 桜川村	奈佐原文楽 鹿沼市	榛名神社の神代舞 榛名町	たたら踊り 川口市	きんちょこ節 清和村	田遊祭 板橋区	お蛙入り 山北町	説経人形 新穂村	春駒 塩山市	やきもち踊り 伊那市	島田の鹿島踊り 島田市
第5回 昭和38年10月 静岡県 駿河会館	日立風流物 日立市	二荒山神社田楽舞 宇都宮市	雷電神社の里神楽 板倉町	原馬室の獅子舞 鴻巣町	ばっぱか獅子舞 野田市	江戸の里神楽 台東区	鹿島踊り 小田原市	角兵衛獅子 月潟村	追分人形芝居 大月市	古田人形 笠松町	吉田町の大奴 猿田彦神社の神楽囃子 新居町
第6回 昭和40年3月 東京都 日本青年館	西金砂田楽舞 金砂郷村	関白獅子舞 上河内村	下長機の三番叟 前橋市	玉敷神社神楽 騎西町	木更津ばやし 木更津市	鳳凰の舞 日の出村	足柄ささら踊り 南足柄町	白山神社舞楽 能生町	室伏の打はやし 牧丘町	木曽駒ヶ岳神社太々神楽 上松町	今宮神社の獅子舞 熱海市
第7回 昭和41年3月 山梨県 山梨県民会館ホール	大串の散々楽と大野の弥栄 常澄村	福原のもちつき唄 大田原市	岩戸神楽 南牧村	関戸の式三番 蓮田市	北之幸谷の獅子舞 東金市	大森の水止舞 大田区	百万遍念仏 山北町	小獅子舞 小木町	内船歌舞伎 南部町	秋山地方の民謡おどり 栄村	富士宮囃子 富士宮市
第8回 昭和42年2月 茨城県 県立県民文化センター	小栗内外大神宮宮比講 協和町	南飯田の神田獅子 小山市	武尊の獅子舞 水上町	下間久里の獅子舞 越谷市	弥栄三番叟 海上町	葛西囃子 葛飾区	相模人形芝居 厚木市	根知山寺の延年 糸魚川市	河口の稚子舞 河口湖町	犀川神社太々神楽 長野市	熱海来宮神社鹿島通り 熱海市
第9回 昭和42年11月 千葉県 千葉県文化会館	祭頭囃子 大野村	野渡のささら獅子舞 野木町	上泉獅子舞 前橋市	内ヶ島の万作踊 深谷市	白桝粉屋おどり 芝山町	江戸の里神楽 稲城市	浦賀の虎踊り 横須賀市	新穂舟下の鬼太鼓 新穂村	山梨岡神社太々神楽 春日居村	跡部の踊り念仏 佐久市	ヒンヤイ鹿ン舞 中川根町
第10回 昭和43年8月 埼玉県 埼玉会館	大杉神社十二座神楽 桜川村	田間の神楽 小山市	東音頭 新町	秩父屋台囃子 秩父市	篠籠田の獅子舞 柏市	江戸の太々神楽 台東区	神代神楽 横浜市	天津神社の舞楽 糸魚川市	春米の銭太鼓 増穂町	台風のため不参加	農兵節 三島市
第11回 昭和44年8月 新潟県 新潟県民会館	お船唄 北茨城市	川俣の三番叟 栗山村	南宝の神楽 北橘村	鷲宮催馬楽神楽 鷲宮町	大塚ばやし 市原市	江戸の里神楽 荒川区	囃子獅子舞 大和市	綾子舞 柏崎市	大草の綾棒踊り 韮崎市	坂部の冬祭 天竜村	清沢の神楽 静岡市

都県名	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	静岡県
第12回 昭和45年8月 栃木県 栃木会館	真家のみたま踊り 八郷町	百村の百堂念仏舞 黒磯市	追具大国の獅子舞 利根村	香取神社の獅子舞 庄和村	西ノ下の獅子舞 九十九里町	小河内の鹿島踊り 奥多摩町	相模人形芝居 小田原市	三条神楽 三条市	西島の神楽 中富町	仁科神明宮の神楽 大町市	沼田の湯立神楽 御殿場市
第13回 昭和46年9月 埼玉県 埼玉会館	潮来ばやし 潮来町	塩原の平家獅子舞 塩原町	かんかん踊り 上野村	上覧ばやし 貴布禰神社神楽 吉田町	忽戸の三番叟 千倉町	深川の力持 江東区	鳥屋の獅子舞 津久井町	文弥人形 佐和町	甲府雅子 甲府市	柏原の盆おどり 信濃町	山名神社天王祭舞楽 森町
第14回 昭和47年12月 千葉県 千葉県文化会館	上戸の獅子舞 牛堀町	鎧塚の宮比講神楽 佐野町	万場町の盆踊り 万場町	駒衣の伊勢音頭 美里町	鬼来迎 光町	浅草神社のびんささら 台東区	大山阿夫利神社の巫女舞 伊勢原市	弥彦神社舞楽 弥彦村	十谷の三番叟 鰍沢町	下栗の掛踊り 上村	三社祭礼雅子 大須賀町
第15回 昭和48年9月 山梨県 富士五湖文化センター	猿島ばやし 猿島町	富山の佐々良舞 馬頭町	近戸神社の獅子舞 柏川村	荻日吉神社の神楽 都幾川村	加茂の花踊り 丸山町	江戸の里神楽 品川区	鹿島踊り 湯河原町	白山神社の田遊神事 畑野町	吉田歌舞伎 吉田市	奈良本の獅子神楽 青木村	懐山田楽 天竜市
第16回～第18回は中止											
第19回 昭和52年10月 埼玉県 埼玉会館				閏戸の式三番 蓮田市 老袋の万作 川越市	岩沼の獅子舞 長生村	葛西のおしゃらく 江戸川区	足柄ささら踊り 南足柄市	能生町の綾踊り 能生町	北口本宮富士浅間神社の神楽 富士吉田市		
第20回 昭和53年10月 長野県 長野市民会館	小栗内外大神宮宮比講神楽 協和町	宗円獅子舞 宇都宮市	保渡田の獅子舞 群馬町	やったり踊り 春日部市						雪祭 阿南町 大門通り 長野市	滝沢の放歌踊り 浜松市
第21回 昭和54年10月 千葉県 袖ヶ浦町民会館					東金ばやし 東金市 ばっぱか獅子舞 野田市 神納神楽ばやし 袖ヶ浦町	深川の力持ち 江東区	善部妙蓮寺曲題目 横浜市	大前神社の式三番 大和町	丹波山村のささら獅子 丹波山村	天竜村の霜月神楽 天竜村	
第22回 昭和55年9月 静岡県 清水市文化会館	浅川のささら 大子町	発光路の強力行事 粟野町	二宮神社の式三番叟 前橋市	鷲宮催馬神楽 鷲宮町	浦部の神楽 印西町						平野の盆踊り 静岡市 天宮神社十二段舞楽 森町 夢守の田遊び 大井川町
第23回 昭和56年10月 東京都 日本青年館						柏木野の神代神楽 檜原村 江戸の大神楽 台東区	三増の獅子舞 愛川町	大の坂 堀之内町	五行の舞 六郷町	黒田人形 上郷町	字久須の人形三番叟 賀茂村
第24回 昭和57年9月 茨城県 県民文化センター	排揺ばやし 八郷町 小栗内外大神宮宮比講 協和町	芦沼の獅子舞 益子町	八木節 伊勢崎市	秩父神社神楽 秩父市	松山神社の神楽 八日市場市	説経浄瑠璃 板橋区					
第25回 昭和58年10月 神奈川県 県立青少年センター	田宮ばやし 新治村						無量光寺双盤念仏 相模原市 足柄ささら踊り 南足柄市	佐渡鷺流狂言 真野町	粘土節 田富町	大島山瑠璃寺の獅子舞 高森町	下田太鼓 下田市
第26回 昭和59年10月 栃木県 宇都宮市文化会館		百堂念仏 茂木町 城跡舞 塩原町	古馬牧人形 月夜野町	芦ヶ久保の獅子舞 横瀬町	佐原雅子 佐原市	数馬の太神楽 檜原村	面芝居 厚木市				

都県名	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	静岡県
第27回 昭和60年10月 新潟県 新発田市民文化会館	西金砂神社田楽舞 金砂郷村	半俵寒念仏 那須町						府屋の獅子舞 山北町 越後の瞽女 黒川村	美和神社の太々神楽 御坂町	刈谷沢御作始の神事 坂北村	田代神楽 本川根町
第28回 昭和61年10月 群馬県 前橋市民文化会館			安中中宿の燈籠人形 安中市 総社神社の太々神楽 前橋市	石原の獅子舞 川越市	松戸の万作踊り 松戸市	八丈島の民謡 八丈島	相模人形芝居 厚木市	下夕町の獅子舞 小千谷市			
第29回 昭和62年10月 山梨県 県民文化ホール	神田ばやし 岩井市	八坂神社の神楽 宇都宮市	新井八幡宮獅子舞 太田市						天津司の舞 甲府市 箕輪新町のおんねりと巫女舞 箕輪新町	湯原神社式三番 臼田町	戸田の漁師踊り・漁師唄 戸田村
第30回 昭和63年10月 埼玉県 岩槻市立福祉会館ホール				横瀬の人形芝居 横瀬町 笹久保の古式土俵入り 岩槻市	おらんだ楽隊 佐原市	王子田楽 北区	チャッキラコ 三浦市	加茂に伝わる後面 加茂市	山田の神楽獅子 六郷町		
第31回 平成元年10月 長野県 県民文化会館中ホール	磐戸神楽 三和町	牧野舞伎 葛生町	尻高の人形浄瑠璃 高山村	竹間沢車人形 三芳町						上八町の獅子狂言 須坂市 遠山の霜月祭南信濃村 善光寺木遣り 長野市	獅子舞かんからまち 掛川市
第32回 平成2年10月 千葉県 成田国際文化会館					北羽島香取神社の獅子舞 成田市 鬼来迎 光町	沢井の獅子舞 青梅市	沖縄民俗芸能 川崎市	巫女釜と若衆の手踊り 越路町	十五所の甲州ばやし 櫛形町	親沢の人形三番叟 小梅町	
第33回 平成3年10月20日 静岡県 静岡市民文化会館	日立のささら 日立市	関白流三依獅子舞 藤原市	下長磯操翁式三番叟 前橋市	大瀬の獅子舞 八潮市	北風原の羯鼓舞 鴨川市						清沢の神楽 静岡市 藤守の田遊び 大井川町
第34回 平成4年11月1日 東京都 北とぴあ さくらホール						鳳凰の舞 日の出町 小河内の鹿島踊 奥多摩町 王子田楽 北区	中野七頭舞 大井町	三条神楽 三条市	無生野大念仏 秋山村	仁科神明宮作始め神事 大町市	梅津神楽 本川根町
第35回 平成5年9月26日 茨城県 県民文化センター	石岡ばやし 石岡市 水戸大神楽 水戸市	鷲宮神社の太々神楽 都賀町	沼須人形芝居 沼田市	台町の獅子舞 本庄市	墨獅子舞 酒々井町	数馬の獅子舞 東京都					

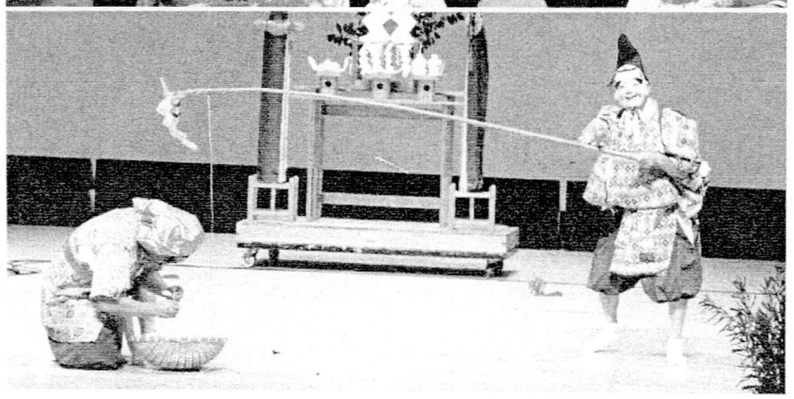
◀感謝状贈呈

大会アルバム

◀ 三和祇園ばやし（茨城県）

◀ チャッキラコ（神奈川県）

◀ お札まき（神奈川県）



◀ 西島の神楽（山梨県）

◀ 西島の神楽（山梨県）

▶◀ 大前神社の式三番（新潟県）

◀ 川合花の舞（静岡県）

▶◀ 早稲田人形（長野県）

新たに指定された
県指定無形民俗文化財の紹介

神奈川県教育委員会は、平成七年二月十四日付で、「室生神社の流鏑馬」を県指定無形民俗文化財に指定しました。

概要は次のとおりです。

○県指定無形民俗文化財

室生神社の流鏑馬　附鞍三背

足柄上郡山北町

室生神社流鏑馬保存会

流鏑馬は鶴岡八幡宮、寒川神社とともに県内三箇所に残るが、山北町の室生神社に伝わるものは、唯一、地元の人々によって行われており、最も古いかたちを保っている。

十一月三日の神社の例大祭に行われ、的に当たった矢の数によって、翌年の稲作について占う。

馬場は、神社前の道路に砂を敷いて整えられ、全長約二七〇メートルである。騎射に先立ち「垢離取り場（こりとりば）」でみそぎを行う点や、先導と射手の二頭で走る点が特徴的である。的は三本で、的持ちが持つが、それぞれ担当する家が決まっている。農民の間に、口伝により継承されてきたものであるので流派の作法とは異なる部分もあるが、それだけに民俗的に価値が高い。

附の鞍（三背）は、室生神社の流鏑馬に使用されてきたものである。それぞれに年記（寛永捨二年、萬治三年、寛文六年）と花押があり制作年代を示しており、流鏑馬の歴史に関する貴重な史料である。

県指定無形民俗文化財の指定を受けて

高杉　貢

山北町室生神社の流鏑馬行事は、県の無形民俗文化財の指定を受けました。

八百有余年の伝統を町民が、支え続けた、歴史と文化の輝きであると同時に、かながわの民俗芸能としてこれからも指定を契機に、継承に一層努めていきたいと思います。

流鏑馬保存会に伝わる起源によると源頼朝の石橋山挙兵の際平家方に味方した為、川村の領地を没収され斬刑に処せられるところであった河村義秀が、鎌倉で行われた流鏑馬（元久元年、一一九〇年）の妙技により免ぜられ旧領に復帰できたという古事によります。

この翌年から室生神社の流鏑馬が始まり中途、農村の手によって継承されてきました。

すなわち一の的に当たれば早稲、二の的は中穂、三の的は晩穂の出来を占うものであり、現在は十一月三日の神社の例大祭に行われています。

まず、拝殿内での流鏑馬開始の式後、騎乗者は法被姿で裸馬に乗り、馬場を一往復します。馬場は神社前の全長約二七〇米の舗装道路に砂を敷いて当日までに整えます。騎馬者は金糸三色刺繍の腹掛・赤い陣羽織・白の鶏毛を立てた兜縞柄の下履きに射小手という正装に着替え、行列を整えて馬場入りし、馬場を浄めながら垢離取場に向かい、垢離取りの儀を行います。

次に、流鏑馬総取締によって馬の脚と口が浄められます。この場は、神社前東八百米の堀込台地裾の社地にあります。

始式は、一の的を鳥居前馬場中央に立て左回りで三周して一の的を射てから、横で待機していた先導の騎者に続いて二の的、三の的を走りながら射ます。この先導と射手の二頭で走る点に特徴があります。

的は九〇㎝四方の杉板で、高さ二・七米の棒に付けます。的持ちは、世襲制で、騎乗者は大祭一週間前に小田原の御幸浜で身を浄めてからは、潔斎を守ります。

（写真提供　㈲ 西岡スタジオ）

山北の流鏑馬の主な特徴は、人も馬も潔斎が終わらないと儀式が始まらないところです。

（室生神社流鏑馬保存会会長）

国・県指定無形民俗文化財一覧

（H7・2・14現在）

国指定無形民俗文化財　3件

チャツキラコ
ちゃっきらこ保存会（三浦市三崎）
S51・5・4

相模人形芝居保存会
林　座（厚木市）長谷座（厚木市）
下中座（小田原市）S55・1・28

山北のお峯入り
お峯入り保存会（足柄下郡山北町）
S56・1・21

県指定無形民俗文化財　25件

沖縄民俗芸能
沖縄芸能研究会（川崎市川崎区）
S51・10・19

菊名の飴屋踊り
あめや踊保存会（三浦市南下浦町菊名）　S51・10・19

下九沢の獅子舞
御嶽神社獅子舞保存会（相模原市下九沢）　S51・10・19

大島の獅子舞
大島諏訪神社獅子舞保存会（相模原市大島）　S51・10・19

大山阿夫利神社の倭舞及び巫子舞
倭舞・巫子舞保存会（伊勢原市大山）　S51・10・19

足柄ささら踊
足柄ささら踊保存会（南足柄市）
S51・10・19

小田原囃子
小田原多古保存会（小田原市多古）
S51・10・19

吉浜の鹿島踊り
鹿島踊り保存会（足柄下郡湯河原町吉浜）　S51・10・19

寺山神社の鹿島踊り
根府川鹿島踊保存会（小田原市根府川）　S51・10・19

湯立獅子舞
仙石原神楽保存会（足柄下郡箱根町仙石原）　S51・10・19

湯立獅子舞
宮城野獅子舞保存会（足柄下郡箱根町宮城野）　S51・10・19

三増の獅子舞
三増獅子舞保存会（愛甲郡愛川町三増）　S51・10・19

鳥屋の獅子舞
鳥屋獅子舞保存会（津久井郡津久井町鳥屋）　S51・10・19

虎　踊
虎踊保存会（横須賀市西浦賀町）
S51・10・19

貴船神社船祭
貴船神社奉賛会（足柄下郡真鶴町真鶴）　S51・10・19

御霊神社の面掛行列
御霊会（鎌倉市坂ノ下）
S51・10・19

お馬流し
本牧お馬流し保存会（横浜市中区本牧町）　S53・6・23

茅ケ崎海岸浜降祭
茅ケ崎海岸浜降祭保存会（茅ケ崎市南湖海岸）　S53・6・23

大磯町の左義長
大磯町左義長保存会（中郡大磯町小磯）　S53・6・23

国府祭
国府祭保存会（中郡大磯町国府本郷）　S53・6・23

世附の百万遍念仏
世附百万遍念仏保存会（足柄上郡山北町）　S53・6・23

三戸のお精霊流し
三戸お精霊流し保存会（三浦市初声町三戸）　S53・6・23

相模人形芝居
前鳥座（平塚市四ノ宮）
足柄座（南足柄市斑目）
S57・2・9

善部妙蓮寺の曲題目
善部妙蓮寺曲題目保存会（横浜市旭区善部町）　H3・2・8

室生神社の流鏑馬　附鞍三背
室生神社流鏑馬保存会（足柄上郡山北町）　H7・2・14

（注）指定物件名、保存会名（所在地）指定年月日の順に記載。

牧野人形の成立と盛衰

林　美禰子

(一)はじめに

県最北部に位置する津久井郡藤野町は、自然に恵まれた、静かなたたずまいの町である。この藤野には、近年、芸術家が多く移り住み、芸術村の様相を呈している。そして、この芸術家集団による様々な地域おこしの活動が盛んであり、なかなかに素晴らしい。

昨年十月二十九日（土）、藤野町篠原地区の大石神社で、地区の地芝居に使われていた廻り舞台を四十年ぶりに回し、人形浄瑠璃が奉納された。二年ほど前に、藤野町に移られた文楽の人形遣い・吉田勘緑氏を中心にした「藤野舞台を創る会」が、大石神社の氏子連や町の協力を得て、実現したものである。できる限り、昔ながらの素朴な雰囲気を再現しようと努められていた。廻り舞台の機能を備えた拝殿は、精霊が宿るかのような大きな杉の木立ちに抱かれている。拝殿前にむしろを敷きつめ、あいにくの雨を大きなテントの屋根で防ぐ。客席を青竹で桝席のように区切り、客席中央の通路を花道として、人形を登場させた。氏子連の手で床下のろくろが回されると、ゆっくりと舞台が回った。「あー、回った！回った！」。割れんばかりの拍手とどよめきがおこる。舞台と客席が一体となり、昔のムラ芝居の盛り上りも、かくやと思えた。

この廻り舞台が、常に使用可能な状態で整備されていることでもわかるように、篠原地区の住民による歌舞伎芝居は、非常に盛んであった。高度成長期に途絶えたが、いま、町全体で復興に取り組まれ、藤野の歌舞伎芝居として蘇っている。

しかし、同じ藤野町に、県下最古の伝承を持つ三人遣いの人形芝居・牧野人形のあったことを、知る人は少ない。大石神社のある篠原地区の隣に位置する大久和が、牧野人形のふるさとである。江戸及び周辺地区の三人遣い人形芝居は、寛延二年（一七四九）、江戸市村座・中村座・森田座の仮名手本忠臣蔵の歌舞伎興行以来、急速に流行して、在来の土佐節・金平節・説経節による人形芝居を圧倒した。忠臣蔵はその前年、大阪竹本座で初演され、末曽有の人気を呼んだが、江戸における義太夫節の人形芝居はこれに刺激されて流行した。江戸作者による狂言も新作され、明和（一七六四～一七七一）を頂点として華やかな時代を迎えた。牧野人形はこの気運に先行して、相模国に最初に定着した人形芝居である。

(二)牧野人形と神原家

大久和地区に三人遣いの人形芝居が定着した背景には、豪族的有力農民・神原家の存在がある。神原氏は室町時代には足利将軍家の御家人だったが、戦国期には今川氏に仕え、駿河の蒲原を領し、蒲原氏を名乗っていた。今川義元が桶狭間の戦いで信長に敗れた折、留守を守る氏真を家来の高林源兵衛が襲った。不意をうたれてなす術のない家中にあって、当時の神原家当主・三郎左衛門徳兼の捨身の働きが、氏真を救った。その際氏真より賜わった「感状」が、今に伝わっている。永禄十二年（一五六九）、徳川氏との掛川城の戦いでも、徳兼は大いに勇戦し、家康にもその名を知られたという。今川氏の滅亡により、徳兼は浪人し、郎党

の志村・中口・柿沢氏ともども、結局牧野に居つき、地元の豪農・佐藤氏と婚姻関係を結ぶことによって、安定した。

慶長九年（一六〇四）、伊奈忠次が、検地巡国の際、牧野村に至り、そこに神原徳兼がいることを知って驚くとともに、懐旧の情をあたため、家康にも報告し、徳兼は二十貫文の土地を与えられたという。寛文検地を施行した領主・久世氏は、神原氏に十人扶持を与えた。神原氏が牧野村の地元の旧家ではなかったにもかかわらず、大経営を営み、大規模な屋敷の主人でありえたのは、徳川氏の庇護の結果だったのである。神原氏の屋敷の様子は『新編相模国風土記稿』に「里正五郎宅図」として載っている。大きな長屋門・母屋・裏の台地の墓地・そして石段下の道路に整然と並ぶ一族郎党の小屋の列。これは豪族的有力農民（神原家は大久和の一人百姓であった）の邸宅図として典型的なものである。

このような経済的安定に加え、神原家代々は江戸遊学の経歴を持つ者多く、数学者あり、医者あり、文化人の色彩濃い人々であった。大久和に牧野人形が定着した背景に、神原家の存在ありといわれる所以である。

㈢牧野人形のカシラ

昭和二十八年、故永田衡吉先生が調査なさった時には、カシラは神原家門前の農家・柿沢家に保管され、翁面と浄瑠璃本が神原家に残されていた。カシラは総数二十七個。破損が甚しく、このままのカシラを用いての芝居の上演は望むべくもない。が、制作当時のまま塗替えもなく、特徴がはっきりしている。制作年代は天明～宝暦のあいだと推定され、様式は古浄瑠璃カシラの遺風を伝えている。人形の肩板と胴輪のつなぎの反古紙に〝宝暦〟の文字が読取られた。これは牧野人形芝居の定着年代を考察する唯一の物証である。しかし現在、この反古紙は失われている。

牧野人形のカシラの特徴として、

㈠ カシラの寸法が、男四寸・女三寸五分を基本としていて、小さい。

㈡ 文七とケンビシの表情が峻別されていない。これは、淡路・江戸系人形の特徴の一つである。

㈢ 源太・娘・子役には、その造型に古浄瑠璃カシラの面影が残っている。

㈣ 心串は一般に長く、頑丈である。

㈤ 心串に引栓のミゾがない。文楽系の引栓・淡路系のブラリ式と違い、コザル式と呼ばれる江戸系である。

㈥ 鉄砲ざしの仰度を持つカシラが多い。

㈦ 三番叟が翁面を用いる淡路系である。

ことなどが、あげられる。

この貴重なカシラは、昭和三十九年に神奈川県立博物館に寄託され、現在、三月十八日に新しくなって開館した、県立歴史博物館に保管されている。ぜひ、写真をご覧いただきたい。

㈣神原家の浄瑠璃本

神原家のおびただしい蔵書の中に二十冊の浄瑠璃本があった。また、「当用〇〇記」と表題した筆写本があって、その中に吉原・江戸三座・勘三郎・竹之丞、勘弥らのことを書いた一冊が綴りこまれていた。「享保九年」「享保十年」の文字も見えることから、その頃江戸へ往来した先祖たちが書きとめたものと思われる。所蔵の浄瑠璃本もその人たちと関連を持つであろう。

浄瑠璃本目録

十行本（三冊）

(1) 丹生山田青海剱（元文三年）

(2) 甲斐源氏桜軍配（宝暦六年）

(3) 祇園祭礼信仰記（宝暦七年）

七行本（十一冊）

(1) 壇浦兜軍記（享保十七年）

(2) 鎌倉比事青砥銭（享保十八年）

註・完本。奥附に「豊竹越前少掾大阪心斎橋正本屋九左衛門」

(3) 芦屋道満大内鑑（享保十九年）

(4) 軍兵富士見西行（延享二年）註・朱入り

(5) 双蝶々曲輪日記（寛延二年）

(6) 恋女房染分手綱（宝暦元年）註・奥附に「寛延四年」とある。改暦前に刻板が。

(7) 義経腰越状（宝暦四年）註・完本。表紙は後補。奥書に「義経新含状」「南蛮鉄後藤目貫の改作」とある。二十四丁目から朱入り。

(8) 小野道風青柳硯（宝暦四年）

(9) 義仲勲功記（宝暦六年三月）

(10) 嫩若葉相生源氏（安永）

(11) 有職鎌倉山（寛政元年六月）註・奥附に「寛政元年西年　菅専助中村魚眼」と板刻。

六行本（六冊）

(1) 小田館双生日記　註・表紙裏に「明和七年　京都扇谷和歌大夫菅専助」の板刻。

(2) （合本）楠むかし噺（舌切雀より端午之段まで）・義経千本桜（狐忠信之段）

(3) （合本）清姫日高川の段・茜染野中の隠井（完本）

(4) 神霊矢口渡　註・完本。表紙に「天保十三寅九月五日」裏表紙に「弘化三年」の墨書あり。

(5) 仮名手本忠臣蔵（十段目）註・朱入り。「文政六年正本所、江戸馬喰町二丁目西村幸助」の板刻。

(6) （合本）仮名手本忠臣蔵（天川屋の段）・傾城阿波の鳴門（八ツ目切）

以上二十冊の浄瑠璃本も県立歴史博物館に寄託されている。

㈤牧野人形の定着年代

刊本年代は、享保十七年（一七三一）から寛政元年（一七八九）に至る六十二年間である。牧野人形にその期間内に定着したもので、おそらく宝暦年間に誕生したと推定される。その根拠は、

㈠ 十行本・七行本合せて十四冊のうち宝暦のものが六冊ある。また六行本のうち「忠臣蔵」「茜染」「楠むかし噺」「日高川」も宝暦以前の当り狂言である。

㈡ 二十冊のうち「丹生山田」「甲斐源氏」「鎌倉比事」「軍法富士見西行」「義仲勲功記」「相生源氏」「小田館」などは稀曲というべきものである。淡路・信州伊那などにも類本がみられる。伊那の古田人形上演記録などの資料によれば初演とほとんど同期に上演されている。牧野人形も同様だったのではなかろうか。

㈢ 人形の肩板と胴環のツナギに「宝暦」と書いた反古紙が使われていた。

㈣ カシラに江戸系十八世紀カシラの特徴がある。

㈤ 隣境、甲州追分人形は享保初発と推定される。牧野人形は追分と同系の淡路人形で、明治・大正期まで淡路の人形遣いが両地をかけもちで歩いていた。

㈥牧野人形の盛衰

昨年、実際に人形遣いとして牧野人形座に参加してこられた唯一の生存者・柿沢義輝氏が逝去された。

義輝氏によれば、氏が参加していた大正期、主遣いは化粧をして顔を出していたという。いわゆる出遣いである。興行は一幕一時間で五幕ほどやり、主な演目は太功記十段目・鎌倉三代記・弁慶上使などであった。

大久和以外にも二十個所ぐらい回った。大久和の人形が旅興行に出ると陽気がよくなるといわれた。一晩のご祝儀は二十円くらいだったが、すべて集落の会計に入れ、道具の補修や購入にあてた。人形遣いの師匠は讃岐出身の吉田愛三郎さんで、「愛ちゃん」とか「愛ジイ」とか呼ばれていた。二百題もの外題をそらんじていて、他所からどんな演目の注文があっても、応じられたという。義太夫は小俣喜一さんの弾き語りであった。芝居の練習はトコバ（柿沢理髪店）でやった。座員は八名で、男役を志村岩光、柿沢嘉十郎、女役を柿沢重豊、柿沢竹次、柿沢義輝が担当し、柿沢貞義、中口政義、柿沢祐雄の三人は男女両方の役をこなした。

このデク人形一座も大正末期をもって自然消滅し、いまはカシラも様々な資料も皆、県立歴史博物館に寄託されている。

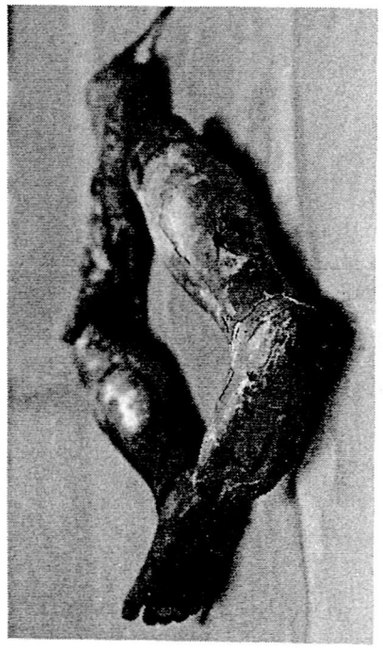
(七)終りに

悲しいことに民俗芸能は、どこでも案外地元の人に知られていない。昨年の奉納人形浄瑠璃の折、牧野人形について話させていただいたのだが、帰り際に「大久和に住んでいるのですが、少しも知りませんでした。」と声をかけて下さった方がいた。特に新住民の中には知らなかった方も多くおられたようだった。反響も大きく喜んでいる。

牧野人形は貴重な資料を残して活動は途絶えてしまった。が、相模人形は五座が活発に活動を続けている。ことしも大石神社での人形浄瑠璃公演も計画されているようである。ぜひ、地域の公演をご覧下さり、ご批評いただきたい。

〔参考文献〕
神奈川県文化財図鑑（無形文化財篇）
日本の人形芝居・新編相模国風土記稿・藤野町文化財調査報告書・相州牧野村

（相模人形芝居研究家）



ニュース・伝言板

新規会員募集

民俗芸能を実際に行っている人、また民俗芸能に興味をお持ちの人等協会では、多くの方々の入会をお待ちしております。会員の皆様も勧誘に御協力ください。なお、協会の事業として、各種芸能見学会、会報の発行等を予定しております。入会ご希望の方は、氏名、住所、職業、電話番号を明記の上事務局にお申し込みください。なお、会費は年額一口千五百円、団体三千円となっております。

会費の納入について

当協会の事業の円滑な運営のためには、会員の皆様の会費納入についての御協力がぜひとも必要です。会費は原則として、各年度5月末日までに納入することになっておりますので、よろしくお願いいたします。

協会行事報告

○平成6年度理事会及び総会の開催

平成6年6月3日（金）神奈川自治会館において、本年度理事会及び総会が開催され、五年度事業報告・決算報告が承認された。併せて六年度事業計画案、予算案が可決された。総会終了後記録映画「善部妙蓮寺の曲題目」が上映された。

○第十八回相模ささら踊り大会

期　日　平成6年7月30日（土）
会　場　綾瀬市民スポーツセンター
　　午後1時30分～
概　要　小園はやし保存会の太鼓により賑やかに始められた。葛原・愛甲・遠藤・長谷・海老名・秦野・南足柄・綾瀬の八保存会の踊りが披露され、最後に合同発表として〝神奈川踊り〟を参加者と観客が一緒に踊り交流を深めた。

○「アジア・太平洋うたとおどりの祭典」見学会

期　日　平成6年9月23日（祝）
場　所　国立劇場
概　要　文化庁主催　当県からは「善部妙蓮寺の曲題目」が出演。国内はもちろん国外からの参加者もあり国際色豊かな大会であった。

他の演目は、次のとおり。カンボディア王国国立民族影絵団、西サモア民族芸能団、寺崎はねこ踊り（宮城県）、白鳥踊（岐阜県）、鳥取の民謡（鳥取県）、種子島南種子のうたとおどり（鹿児島県）
参加者56名

○関東ブロック民俗芸能大会見学会

期　日　平成6年10月23日（日）
場　所　横浜市市民会館　関内ホール大ホール
参加者26名

○全国民俗芸能大会見学会

期　日　平成6年11月26日（土）
場　所　（財）日本青年館
概　要　文化庁の企画で毎年行われており、今年で四十四回目。今回は、〝民俗芸能　北から南から〟として行われた。

演目は次のとおり。小迫の延年（宮城県）、日向盲僧　琵琶（宮崎県）、白石踊り（岡山県）、沖縄小浜島の芸能（沖縄県）
参加者33名

○創立30周年記念西風流発表会（後援）

日　時　平成6年11月27日（日）
場　所　横須賀市文化会館
　　創立20周年記念行事・記念舞踊「飴屋踊り」

○第22回相模人形芝居大会（後援）

日　時　平成7年2月19日（日）
場　所　南足柄市文化会館小ホール
概　要　5座が一堂に会して、日頃の練習の成果を発表した。各座員の熱演に観客から暖かい拍手が送られた。演目は次のとおり。

傾城阿波の鳴門〝巡礼唄之段〟（下中座）、増補生写朝顔日記〝宿屋より大井川まで〟（前鳥座）、絵本太功記十段目〝尼ヶ崎之段上〟（林座）、絵本太功記十段目〝尼ヶ崎之段下〟（長谷座）、壺坂霊験記〝沢市内より谷底まで〟（足柄座）

○平成6年度後継者育成事業「指導者研修会」

日　時　平成7年3月25日（土）
場　所　神奈川自治会館
概　要　午前中は、後藤　淑会長から「民俗芸能の現状」と称して、お話を聞いたあと、3月にオープンした県立歴史博物館を見学した。
参加者　18名

会員活動紹介

○二宮町民俗芸能保存会連絡協議会創立20周年記念誌刊行

○箱根湯立獅子舞文化財指定40周年記念行事及び記念誌刊行

日　時　平成6年11月20日（日）
場　所　宮城野公民館、宮城野温泉会館

○鎌倉芸能大会

日　時　平成6年9月25日（日）
場　所　鎌倉芸術館小ホール

演目は、次のとおり。

山ノ内祭ばやし、鎌倉神楽、いそざき、もちつき唄、田植え歌、大船甚句、はやし獅子、建長寺鎌倉流御詠歌、焼米つき唄・田植唄、台祭りばやし、木遣歌、天王唄、面掛行列

○茅ケ崎市芸能大会

日　時　平成6年11月27日（日）
場　所　茅ケ崎市民文化会館小ホール

演目は次のとおり。

寿三番叟、円蔵祭ばやし、カッパ踊り、ササラ盆唄、間門甚句・柳島舟唄、岡崎踊り、餅搗唄麦打唄、茅ケ崎ふるさと音頭、実りの喜び、大漁舟上げ唄、焼米搗唄、芹沢祭ばやし、エンコロ節、乙女文楽、壺坂観音霊験

編集後記

編集部では会員の方々からの投稿をお待ちしております。日頃の活動状況、行事の写真、または情報交換の場として御活用くださるなど、お気軽にお寄せください。

お詫び　機関誌58号16ページ、会員活動紹介の記事中小田原民俗芸能大会の出演団体に山王大漁木遣唄保存会が欠落しておりました。関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申しあげます。

「かながわの民俗芸能」第59号
平成7年3月31日発行
編集　横浜市中区日本大通り33
神奈川県教育庁生涯学習部
文化財保護課内
神奈川県民俗芸能保存会協会
事務局　☎（201）一一一一㈹
発行　神奈川県民俗芸能保存協会
印刷　株式会社　港　栄　印　刷
☎（333）八八一五㈹

神奈川県立
7.5.27
図書館